

○ 石 沢 進 黒姫山の植物

黒姫山は標高1221m, 新潟県西頸城郡青海町に所在する。全山石灰岩からなり、多くのドリーネもあって、地形は複雑である。日本海気候区に属して多雪であり、特にドリーネは残雪期間が長い。

自生植物は956種で、特産種はないが、次の如き特徴がみられる。1. 山麓が海岸にのびるために、日本海沿岸を北上している南方系の植物が分布する。2. 内陸部に分布する西日本要素の植物、中部日本要素の植物も生育する。3. 多くの北方系また亜高山性の植物が分布する。4. 日本海要素の植物が多く分布する。5. 全山石灰岩地であるのに、好石灰岩の植物は比較的少ない。6. 石灰岩地特有のカルスト地形をなし、ドリーネが発達していて特殊な生態環境を有する。

B5版、170頁、新潟県西頸城郡青海町教育委員会発行。発行所に残部若干あり、頒価1500円。

○ 武甲山植物群保護対策推進協議会 写真集 武甲山の植物

武甲山は秩父盆地の南西側の壁をなす標高1336mの山で、全山石灰岩から成っていて、石灰岩植物が多く、植物相も変化に富んでいて、ここを基準産地とするもの、また、その名を冠した植物も少ない。しかし、石灰岩の山なるが故に採掘が進み、山容が日増しに変化してゆく。そして武甲山を特色づける植物群は絶滅の危機に直面している。武甲山植物群保護対策推進協議会(秩父市熊木町8-15、秩父市教育委員会内)は武甲山の変容を目の前にして、せめて、かけがえのない貴重な植物群だけでも、保護すべきであるという声にこたえて、昭和45年結成された。本書は武甲山の植物の重要性を多くの人々に知ってもらうために発刊されたもので、写真撮影は井上 茂、解説は守屋忠之の両氏の努力により編集された。

B5版、178頁、定価2300円。

○ 森 和男 原色 洋種山草

“洋種出草”とは何かということであるが、著者は序文に「“洋種山草”とは何だろうか。これは“洋ラン”と同じで、かつてヨーロッパから導入されたので名づけられたようだ。しかしヨーロッパでは、当然、世界各国の山草を作っている。したがって南北アメリカやアフリカ、アジアの中国東北部から朝鮮半島、サハリンまで、すなわち日本以外が“洋種山草”の地域である。と定義している。

したがって、著者は“洋種山草”が「強烈な色彩をもつ、はでな花」「バタ臭く、日本人の趣味に合わない」……ものではないと強調し、「趣味の巾を広げ、その対象を広く世界に求めよう。山草に国境はない。丈夫でよいものなら、双手をあげて迎えようではないか」と、その栽培をすすめている。

B6版、240頁、1500円(送料160円)、社団法人 家の光協会発行(〒162 東京都新宿区市谷船河原町11)

(里見信生)